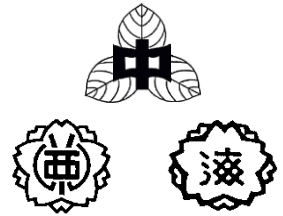


# 風は西から



平成 30 年 2 月 9 日 第 4 号

平成 29 年度「学びの変革」パイロット校事業  
平成 29 年度 21 世紀型能力育成事業（海田西中学校区）

## 第 4 回授業研究協議会（H30.1.24）報告

平成 29 年度研究主題  
主体的に学びを深める児童生徒の育成  
～協働・対話による「課題発見・解決学習」授業づくりを通して～

### 1 分科会の協議と助言より

#### 【協議の柱】

- 児童生徒の主体的な学びのための手立てが工夫されていたか。
- 協働・対話につながる手立てが効果的であったか。

中 2 理科	
協議より	指導助言より
◎既習事項・タブレットの活用 ◎単元頭にゴールを示したことで取り組みやすい。 ◎3～4人の小グループがよい。 ▲既習事項はノートに加え、掲示があるとよい。 ▲同じグループ内でもっと交流 ▲まとめの工夫・使う語句の指定	卒業生の「勝丸さん」の存在が動機になっていた。主体的に進めることができている。「天気予報ができるようになる」とはじめにあったからよかったが、「必要性」がおさえられるとよい。小学校（小5）と中学校の学習の相互に意識した授業をする。グループ活動のICTは、生徒が自分の手で動かして見ることが重要（視覚的に有効）
小 4 ・ 中 2 総合	
協議より	指導助言より
<b>小学校</b> ◎手紙や新聞記事等で意欲付け ◎司会カードの活用 ▲めあてや進行が教師の主体になることが多かった。児童に「もったいない」と考えさせ、「どんなことをすればいいか」と教師が発問し、深めさせてはどうか。 <b>中学校</b> ◎活発な話し合い ◎職場体験のお礼状を書いた経験から生徒がこうすればよいとイメージできていた。 ▲グループ内の交流だけになっており、多グループの内容についてもっと交流できればよい。 ▲生徒がゴールを見通せていたかどうか。	小・中ともにやっていることは海田町が目指していること。社会参画・社会貢献学習 生徒の実態は、県平均と比較せず、個人内変容をみる。これが総合のスタートである。 「深い学び」に子どもだけでは達成できない。専門家（先生やその道のプロ）に出会うことでエピソードが生まれると深い学びに展開していく。 9年間のストーリーにつながっていくとよい。各学年の取り組みが単発で中3の政策提言につながっている状態である。 「学校（子どもたち）が地域を支える」という考え方でストーリーのある学びに。

小5 算数	
協議より	指導助言より
<p>◎「リレーをしよう」という単元構成は、必然性のある設定であった。また、「わからない」と言えるクラスづくりで、児童が主体的に学んでいた。</p> <p>◎一輪車などの実物を用意していたことで、児童の思考の助けになった。</p> <p>◎児童のつぶやきをうまく授業に生かし、算数用語に直させていたのがよかった。</p> <p>▲導入の部分で児童が課題をつかみにくく、時間がかかった。もう少しコンパクトに。直径と円周との関係を聞くより、「円周は直径の何倍なのだろうか」と具体的に聞いた方が分かりやすかった。</p> <p>▲協働である話し合いを活発に行うために、もう少し簡単な発問にするとみんなが参加できるのでは。</p>	<p>主体的な学びを促すための課題設定の工夫は、今日のような日常生活に関わる課題は有効である。何のために、何ができるようになるかということをはっきりとさせてから設定することが必要である。</p> <p>今後に向けて、深い学びをもっと進めていく。深い学びとは、数学的な見方や考え方を働かせること。また、「～が分かれば～ができる」といった日常生活との結びつきを意識した単元づくりをしたい。単元を考えるときは、単元全体を見て、どこで考えを深めるのか、どこで振り返るのか、他の教科との関連などをよく考え、カリキュラムデザインすることが大事である。</p>
小3 道徳	
協議より	指導助言より
<p>◎主体的な学び</p> <p>◎視覚的援助・座標軸</p> <p>◎本音で話せるクラス</p> <p>◎ペアトークや子ども同士の質問→対話</p> <p>▲思考を深める発問</p> <p>▲「いざとなったら言えない」という子どもの本音から取り上げていくのはどうか。</p>	<p>一面的から多角化へ・自己のこととして考える・自己を見つめる→これらは新しい道徳のかたち</p> <p>座標軸は多面的な考え方ができる。</p> <p>発問を多面的多角的にもっていけるように。</p> <p>子どもに問題意識をもたせる。(テーマ発問、資料からの課題など)</p> <p>深い学びのために、広がったままで終わらない。ただし「押しつけ」はダメ。整理をしてやる。</p>
小6 外国語	
協議より	指導助言より
<p>◎子どもたちが会話を続けられているのがすごい。</p> <p>◎視点を変えるのはよかった。</p> <p>◎主体的にやり取りをしていた。</p> <p>◎HTが中心で進み、JTが上手にサポート</p> <p>▲主体的だがさらにレベルアップをするように、「I see」「me too」だけでなくその国の人しか分からないことを尋ねてみてはどうか。</p>	<p>最後に1番最初に何もなくてやってきたペアがどのようにレベルアップしてきたか分かりやすかった。深まった。</p> <p>フォームの練習をする授業だった。フォームだけでは会話に無理が出てくる。内容や気持ちを言葉にのせて子どもに指導していくことも大切</p> <p>海田地区の子どもたちは皆グローバル。英語を使うのが楽しいと思う成功体験を積んでいる。</p>

2 講評より～今後に向けて～ (広島県西部教育事務所 教育指導課指導主事 吉原知美様)

○課題解決学習の質の向上

「児童生徒が手応えを感じる」を繰り返す授業の工夫

○カリキュラムマネジメントの充実

児童生徒が主体的に学ぶために全ての教職員が参画

児童生徒の実態から、学習の「目的」「内容」「方法」を確認する。

